

非常時に備えて

非常時持出品チェックリスト

突然やってくる災害に備えて、あらかじめ必要なものを準備しておきましょう。

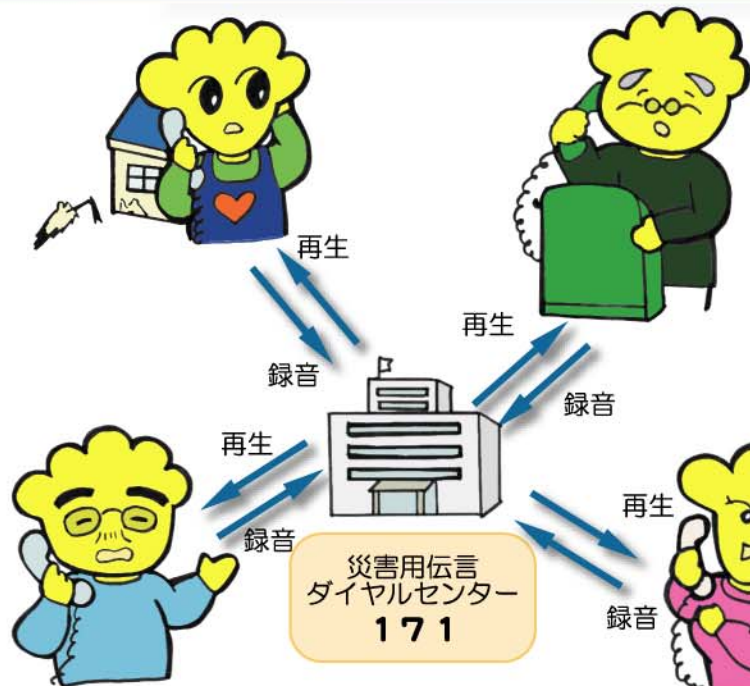
- | | |
|------------------------------|--|
| □非常食
(カロリーメイト・ゼリー飲料・缶詰など) | □ティッシュ・タオル |
| □飲料水 | □ビニール袋 |
| □携帯ラジオ (予備の電池) | □上着・下着 |
| □懐中電灯 (予備の電池・電球) | □軍手 |
| □ろうそく | □救急医薬品
(キズ薬・ばんそうこう・
解熱剤・かぜ薬・胃腸薬など) |
| □ヘルメット (防災ずきん) | □常備薬 |
| □くつ (避難用) | □小銭
(公衆電話用の10円硬貨など) |
| □ふえ | □健康保険証のコピー |
| □携帯電話 | □筆記用具 |
| □ライター | □古新聞 |
| □万能ナイフ | □使い捨てカイロ |



家族で防災会議

災害は、いつどこで起こるのか想像しがたいものです。
いざという時の家族の行動、避難スペースや避難方法などを日頃
から家族でよく話し合っておきましょう。
また、災害による被害を少なくするために、あらかじめ家庭内の
役割を分担しておきましょう。

非常時伝言ダイヤルのご利用方法



災害時の伝言ダイヤルとiモード

— 震度6弱以上の大規模災害発生時 —

伝言ダイヤル171

- 伝言を録音
171+1+市外局番+自宅の電話番号
- 伝言を再生
171+2+市外局番+自宅の電話番号

iモード

- メッセージの登録
 - ①「i Menu」から「iモード災害用伝言板」を開く
 - ②災害伝言板画面の「登録」を開いて安否状態を記入
- メッセージはiモードやパソコンから確認できます。

地震の心得

“今の世代から次の世代へバトンタッチ”

- 地震から身を守るために
- 地震から身を守る10のポイント
- 地震が起こる前の安全対策
- 津波から身を守る10のポイント
- 津波浸水予測図 (ハザードマップ)
- 防災から減災へ
- ハザードマップQ&A
- 想定震度と過去の津波浸水深
- 非常時に備えて
- 非常時伝言ダイヤルのご利用方法

愛
い
なし

え
え
あれば



御 坊 市

地震から身を守るために

地震発生

1～2分

避難準備

3分

5分

5～10分

10分～数時間

～3日くらい

避難生活では

- まず自分の身を守ります。机やベッドの下に身をかくし、寝ている時はふとん・枕で頭を守ります。
- 火元の確認と初期消火をします。小さな揺れでも火を消し、ガスの元栓を閉めます。
- ドア・窓を開けて脱出口を確保します。



- 家族の安全を確認します。家屋の倒壊・山崩れなどの危険があればただちに避難します。

- 屋内でもくつを履きます。ガラスなどから足を守り、すぐに避難できるようにしておきます。

- 地域の災害時要援護者の安否を確認します。



- 非常持出品を手元に用意します。近所の出火を確認します。



- 地震・津波に関する情報を収集します。ラジオなどから正しい情報を集め、デマに惑わされないようにしましょう。

- 自宅を離れる時は、電気のブレーカーを落とし、行き先をメモに書いて、玄関など目立つところに貼ります。
- 津波の危険性がある場合は、より高い場所へ避難します。
- 津波はくり返し襲ってくるため、波が落ち着くまで避難します。
(参考：津波がおさまる通常の状態に戻るまでに、およそ6時間から十数時間かかると言われています。津波警報が解除されるまでは避難スペースにとどまってください。)

- 自主防災組織やとなり近所と協力して、救急救出・消火活動を行います。消防署等への通報もします。
- 避難する時は集団で行動します。避難は徒歩とし、ブロック塀、切れた電線、ガラス窓には近づかないようにします。

- 集団生活のルールをまもりましょう。
- 非常備蓄品を取り出します。自足の生活が原則ですが、地域での助け合いも大切です。



地震から身を守る10のポイント

地震から身を守る最大のポイントは、日頃の備え。ケガや火災などの二次災害を引き起こさないためにも、いざという時の行動を覚えておきましょう。

1. まず身の安全を

倒れやすい戸棚や本棚からすぐ離れ、丈夫なテーブルや机の下に身をかくす。



6. 狭い道やブロック塀には近づかない

ブロック塀や門柱・自動販売機などは倒れやすいので要注意。



2. すばやく火の始末

「火を消せ！」と声をかけあい、ガスコンロやストーブなどの火を完全に消す。



7. 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意

ラジオやテレビで正しい情報を聞き、津波警報が発表されたら、高い所へ逃げる。



3. 戸を開け出口を確保

特にマンションなどでは、出口の確保が重要。逃げ道を失ったら避難できない。



8. 避難は徒歩で

決められた場所へできるだけ集団で避難。持ち物は最小限に。



4. 火が出たらすぐ消火

火災が発生してもあわてず初期消火に努める。消火器具の備えは忘れずに。



9. 協力し合って応急救護

多数の負傷者がいれば、地域ぐるみで応急救護。



5. 外へ逃げるときはあわてずに

あわてず、落ち着いた行動を。逃げるときは、瓦やガラス・看板などの落下に注意。



10. 正しい情報を聞く

うわさやデマにとらわれず、ラジオやテレビで正しい情報を。



地震が起こる前の安全対策

考えてみよう



地震はいつ起こるか分かりません。
いろんな場面で地震が起きた場合に身を守る方法や注意点について考えておきましょう。



「備えあれば憂いなし」チェック

■揺れから身を守るために

- ☐ 寝室にはできるだけ物を置かない。
- ☐ 家具の配置の見直し・転倒防止
- ☐ 窓や家具のガラスなどに飛散防止テープをはる。
- ☐ 家の耐震性を調べ、補強する

■避難するために

- ☐ 玄関や廊下にはできるだけ、物を置かない。
- ☐ 暮らししている地域の危険性を知っておく。
①地域がどれくらい揺れるか
②津波の到達する時間と浸水する範囲
- ☐ 津波からの避難スペースと避難経路を、自宅、職場、学校などの場合でそれぞれ調べておく。
- ☐ 実際にその経路を歩いてみて、避難スペースまでの時間や途中の危険な場所を知っておく。
- ☐ 枕元に、懐中電灯・携帯ラジオ・靴・メガネ・補聴器などは必ず置いて寝る。

■初期消火のために

- ☐ 消火器を置き、その使い方を覚えておく。

■地震後の生活のために

- ☐ 日頃から、水・食料は多めに用意しておく。

■地震が起こった場合の行動をみんなで確認

- ☐ 地震後の集合場所や緊急の連絡先・連絡方法を家族と話し合い、決めておく。

■地域でお互いに助け合うために

- ☐ 地域の防災活動に参加する。

地震の揺れと想定される被害

0	人は揺れを感じない。	5弱	棚にある食器類、書籍の本が落ちることがある。窓ガラスが割れることがある。電柱が揺れているのがわかる。
1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。	5強	多くの人が行動に支障を感じる。タンスなどの重い家具や自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難になる。
2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。吊り下がった電灯などがわずかに揺れる	6弱	立っていることが困難になる。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある。
3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。棚にある食器が音を立てることがある。電線が少し揺れる。	6強	はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動、転倒する。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。
4	かなりの恐怖感がある。吊り下げたものは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てることがある。電線が大きく揺れ、歩いている人も揺れを感じる。	7	自分の意志で行動ができない。ほとんどの家具が移動し、飛び出すものもある。耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破損することがある。

津波から身を守る10のポイント

津波から身を守る最大のポイントは、とにかく高い場所へ逃げることです。
いざという時のために、正しい知識を身に付けておきましょう。

1. 小さな揺れでも油断禁物！

小さな揺れでも津波の危険性がある。



6. 満潮の時は要注意

水位が高くなっているため、被害が大きくなる。



2. 高い場所へ避難する

海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難。



7. 家族会議を開こう

避難する場所を事前に家族で話し合っておく。



3. 津波のスピードは速い！

「注意報」や「警報」が出る前に来る津波もある。ただちに避難。



8. 正しい情報を聞く

ラジオ・テレビ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きます。



4. 津波はくり返し来る！

津波はくり返し襲ってくる。波が落ち着くまで避難します。



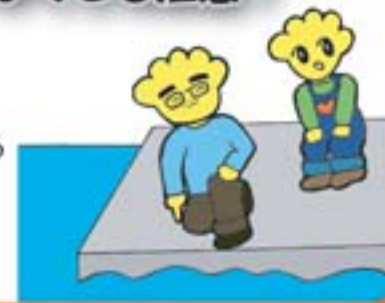
9. 注意報、警報が出たら

家族や近所に知らせ、いそいで高台に避難します。



5. 引き潮がなくとも注意！

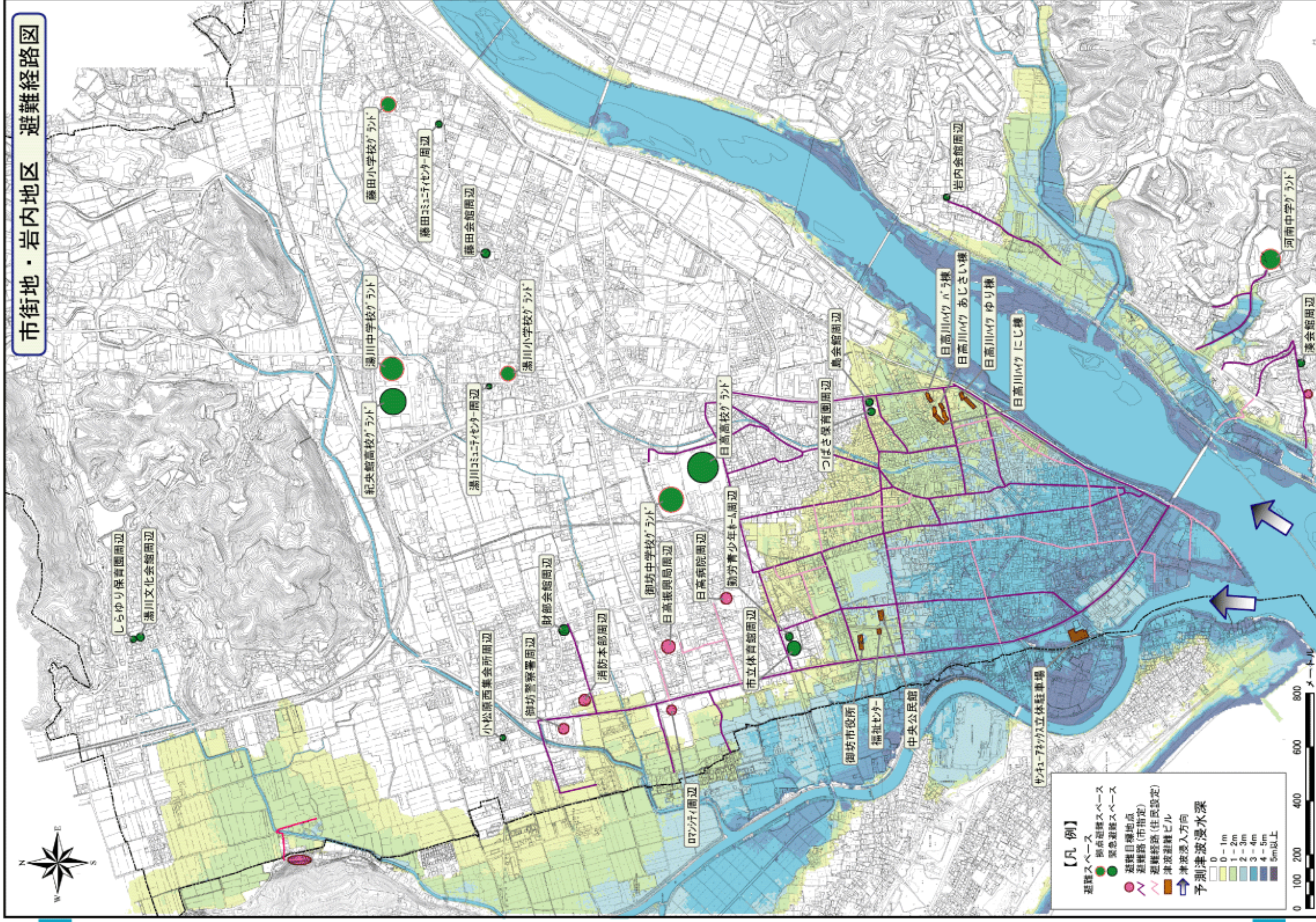
津波の前に引き潮が必ずあるとは限らない。



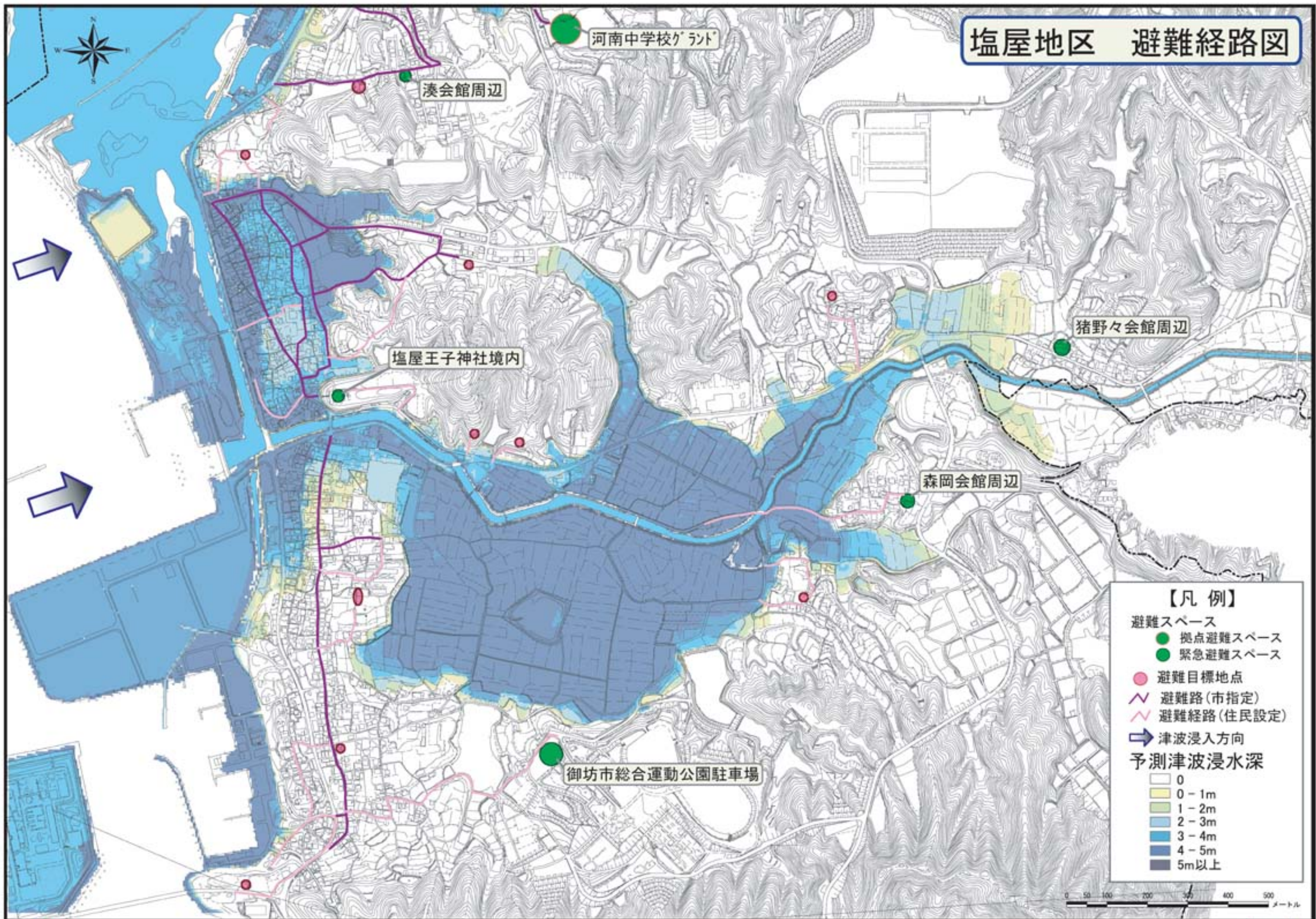
10. 海岸・河川に近づかない

注意報、警報が解除されるまで海辺や河川には近づかない。

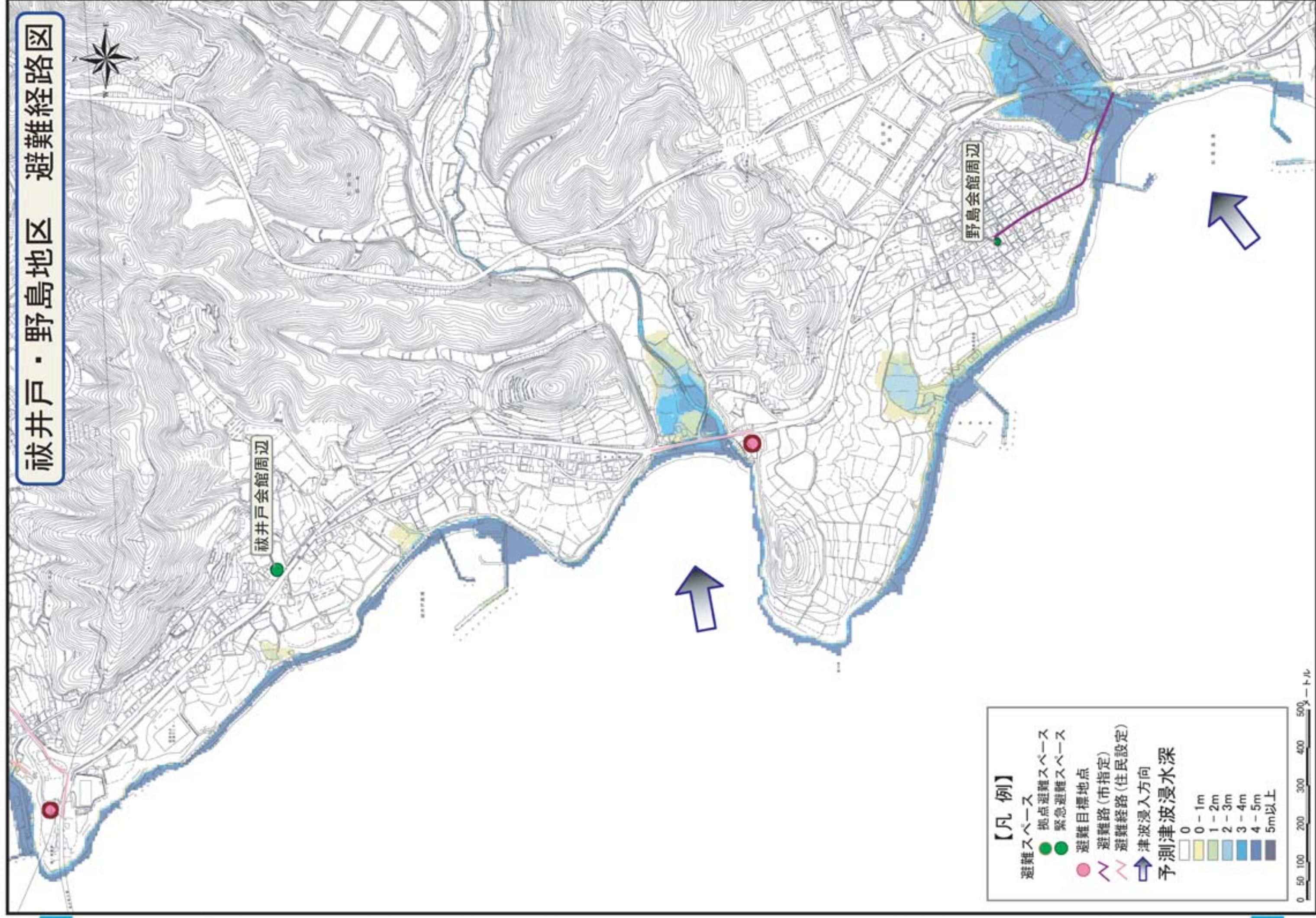




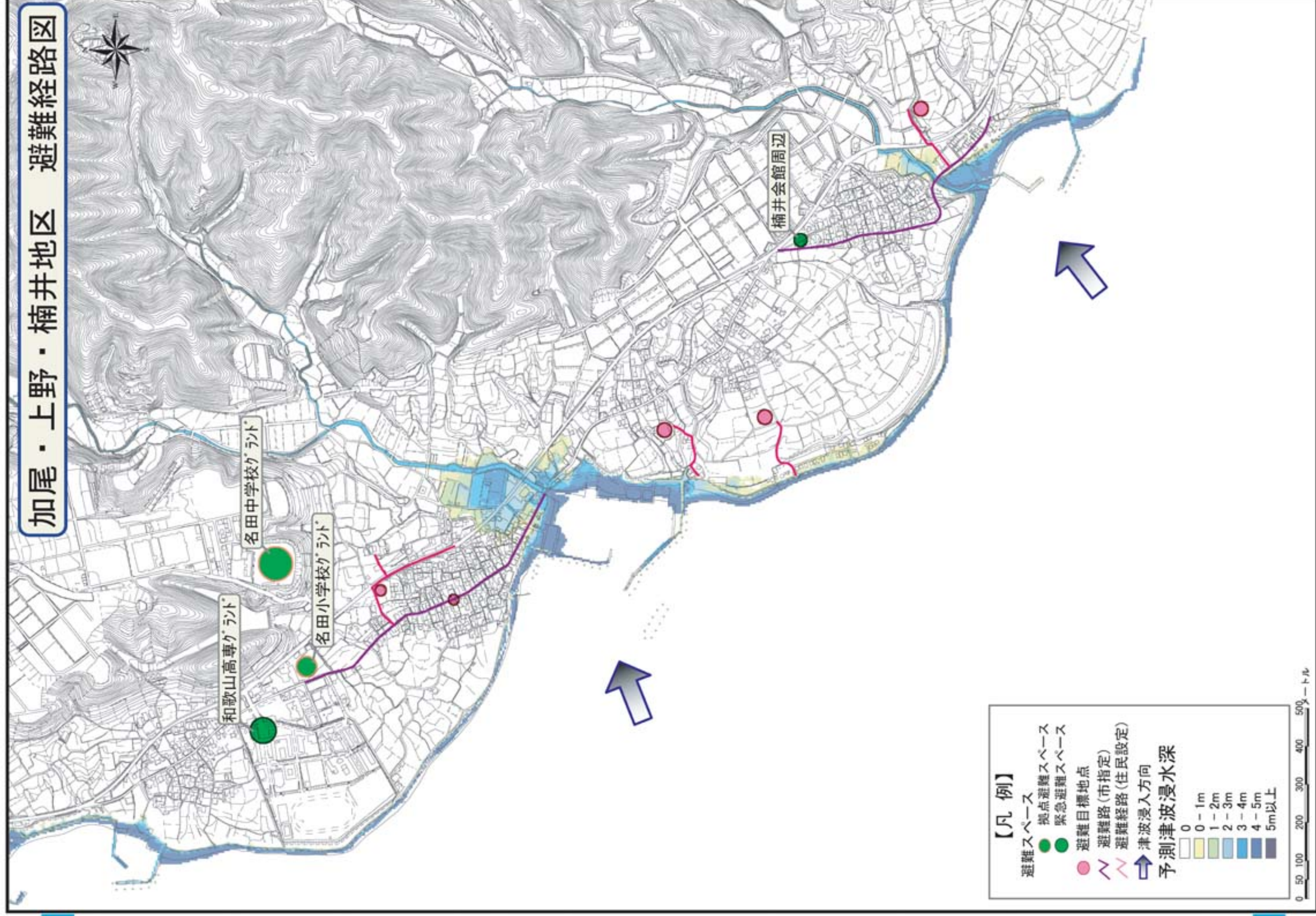
塩屋地区 避難経路図



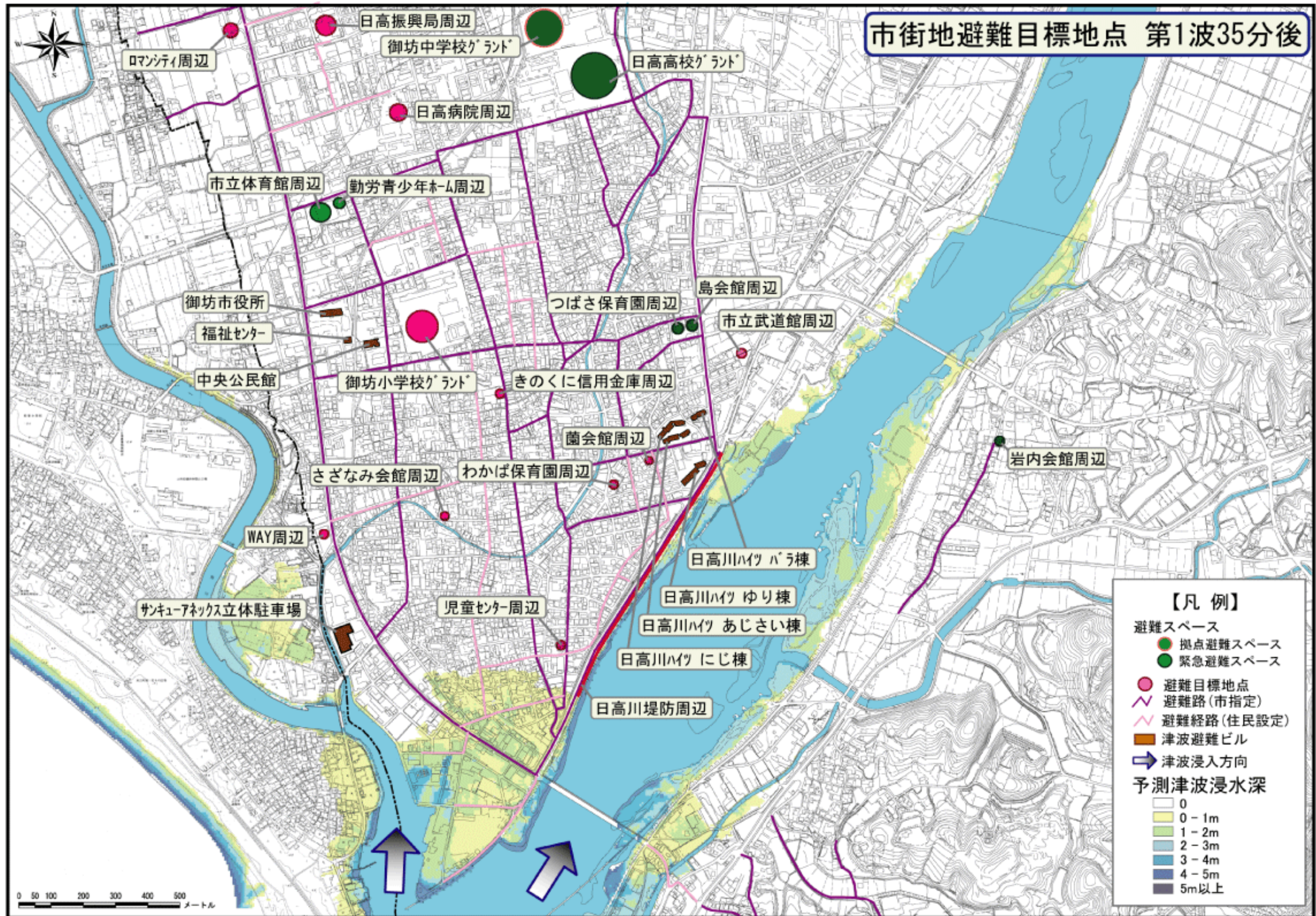
祓井戸・野島地区 避難経路図



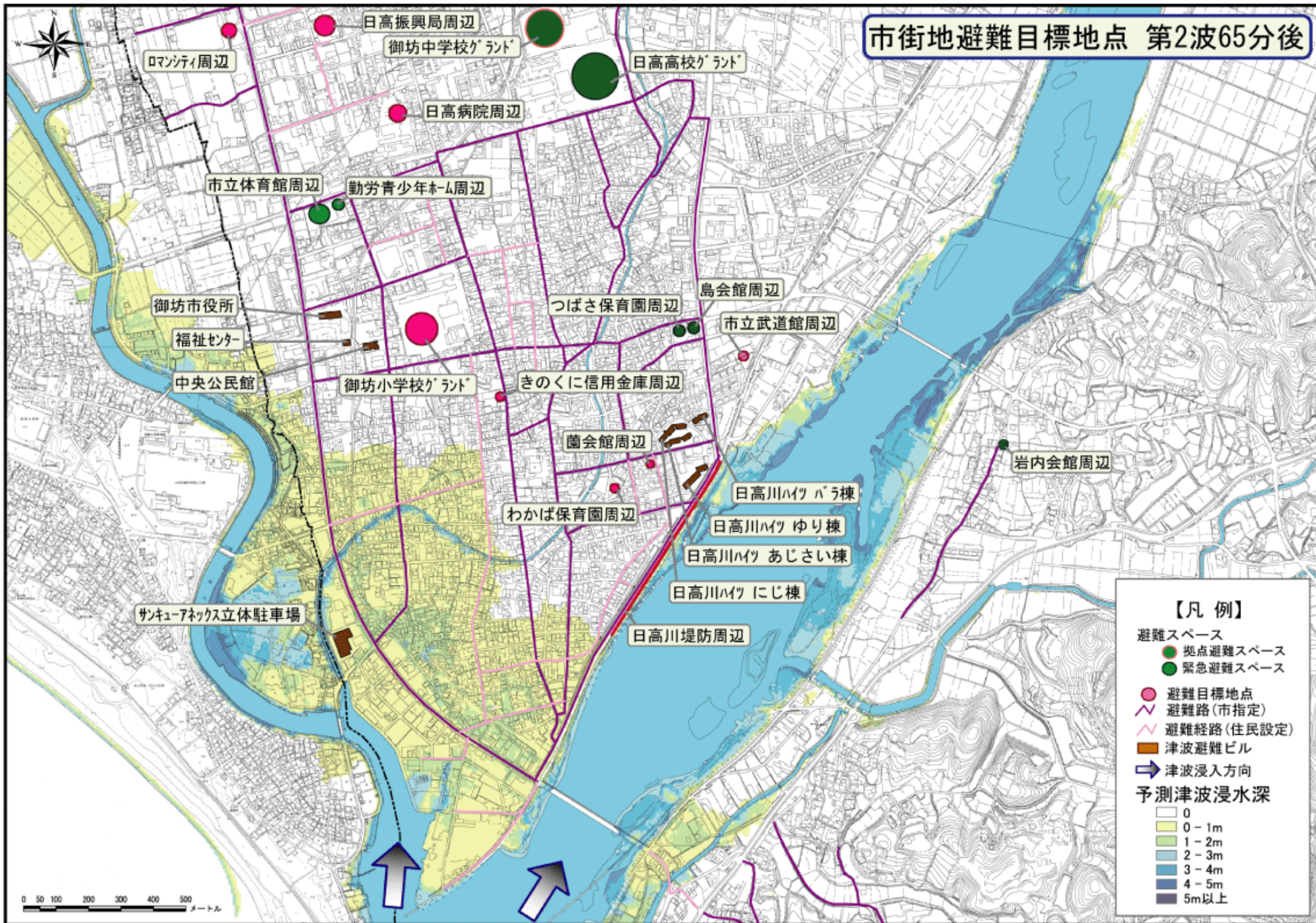
加尾・上野・楠井地区 避難経路図



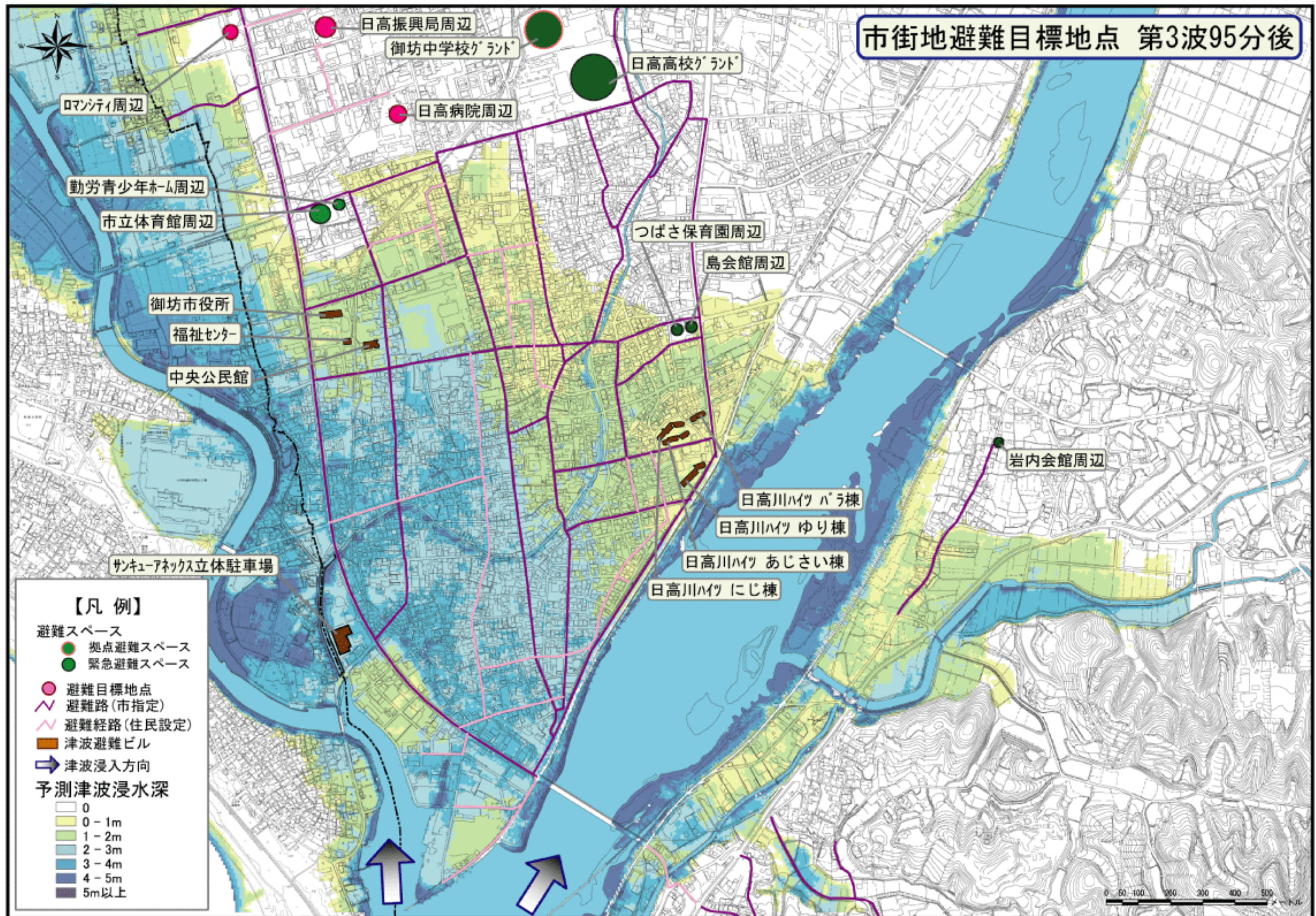
市街地避難目標地点 第1波35分後



市街地避難目標地点 第2波65分後



市街地避難目標地点 第3波95分後



防災から減災へ

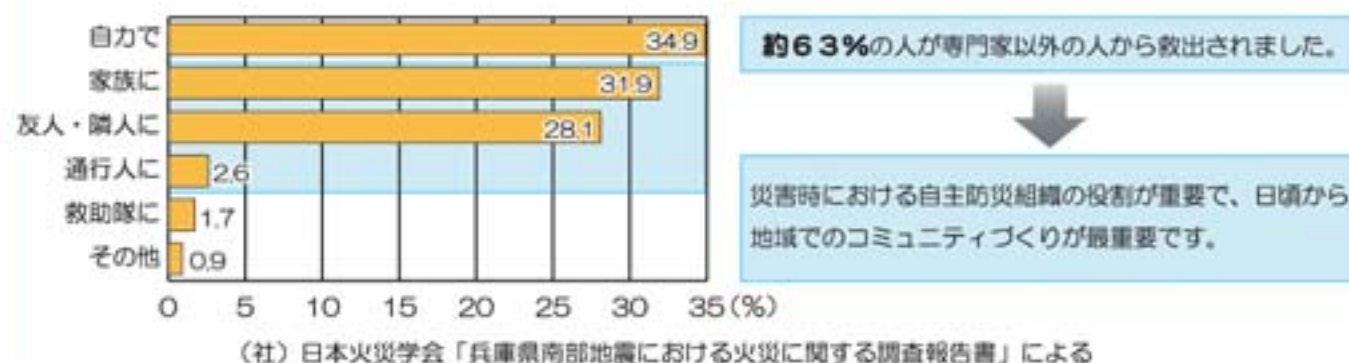
地震を防ぐことは出来ません。しかし、被害を少なくする方法があります。

被害を最小限にするためには、「隣、近所の助け合い（自主防災組織）」が大切です。

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で、家屋の倒壊や家具の転倒落下等により生き埋めになった人に対して、誰に救助されたかアンケート調査を行っております。

調査結果では、自力で脱出した人（34.9%）、家族に助けられた人（31.9%）、友人・隣人に助けられた人（28.1%）でした。

また、専門の救助隊に助けられた人はわずか1.7%という結果で、専門家による救援を受けることが難しかったことがわかります。



自主防災組織とは

災害時には、出火の防止、初期消火、避難誘導、被災者の救出・救護など自主的な防災活動が何よりも大切です。

こうした初期の災害への対応にちからを発揮するのが、地域の人々でつくる自主防災のための組織（自主防災組織）です。

「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意識をもって自主防災組織を結成し、消火、避難、救出などの訓練を行い防災活動に取り組んでいきましょう。

自主防災組織の日常活動

いざというとき自主防災組織が有効な活動を行い、被害を最小限にしたいためには、地域住民が防災知識を習得し、災害に備えていることがもっとも大切です。

そのためには常日頃からの地域ぐるみの普及活動が欠かせません。

具体例

- 消火・避難・図上・炊き出し等の訓練の実施
- 防災意識啓発・高揚のための講習会の実施
- 地域災害史や体験談の掘り起こし
- 地域内危険要因や危険箇所の調査とその周知徹底



Q: そもそも津波ハザードマップとは、どのようなマップなのでしょうか？

A: 地震発生後、津波がいつ、どこまで、どの程度、やってくるのか、避難目標地点や避難スペースはどこか、などを図面に表示して、津波による被害を最小限にすることを目的とするものです。

Q: 今回の津波シミュレーションはどのような条件で行っているのでしょうか？

津波による浸水域が広がるような気がするのですが。

A: まず、シミュレーションの条件は、次のとおりです。

1. モデルは宝永地震（1707年）
2. 満潮時（T.P.+0.8m）に津波が発生したと仮定
3. 地震による地盤変動は考えない
4. メッシュの大きさは5m（⇒下川・王子川等の小河川からの浸水を知ることが可能）
5. 地震発生から3時間分を計算 ※T.P.・・・東京湾平均海水面

次に、浸水域についてですが、モデルとなっている宝永地震は、マグニチュード8.6と、有史上一番規模の大きかった東海・東南海・南海地震と言われており、その地震が満潮時に発生したという条件なので浸水域が広がっています。

Q: 津波ハザードマップはどのような経過で作成されたのでしょうか？

A: まず、ハザードマップの作成に際して、各自治会長さん対象の津波説明会を1回、住民対象の津波説明会を2回開催しました。次に、津波シミュレーションの結果、津波による浸水が予想される自治会に関しては、自治会長さんと役員さんにワークショップに参加していただき（計9回）、その結果を各自治会で再度検討していただいて完成したのが今回のハザードマップです。

Q: 市の津波シミュレーションと県の津波シミュレーションの結果が異なるのはなぜですか？

A: 津波の大きさは、同じマグニチュードの地震であっても、実際に津波が発生する場所（波源域）が異なれば、違ってきます。例えば、県が作成したシミュレーションと市が独自に作成したシミュレーションとを比較すると、想定している地震の大きさは、マグニチュード8.6と同じ大きさの地震になっていますが、津波の発生する場所（波源域）が異なるために、津波が陸上に浸水する範囲が異なっています。県よりも市のシミュレーションの方が、津波の影響が大きくなる場所を想定しているため、浸水範囲が広がっています。

Q: 最大浸水予測図とはこういった図ですか？

A: 最大浸水予測図とは、ある一定の時間内に津波が何度か押し寄せてきた中で最大となる浸水の結果を地図上で表したものです。今回のシミュレーションでは、計6回の津波が押し寄せた中で最大波の結果を地図上で表しています。よく、一度に津波が押し寄せてきた結果が掲載されていると誤解されている方がいますが、あくまでも津波が何度か押し寄せてきた結果を表していますので、ご注意ください。

Q: 過去に発生している南海地震津波（安政南海地震津波・宝永南海地震津波）が御坊市でどこまで来たかという数値（21ページ参照）は正確ですか？

A: お寺の古文書等に掲載されているものを参考に作成しています。

当時（宝永地震：1707年、安政地震：1854年）と現代とでは、環境条件（海岸地形・住居数等）が異なる部分が多いと思われます。安政・宝永地震津波の数値は、あくまでも参考数値としてお考えください。

Q: 東海・東南海・南海地震と3つの地震がありますが、それぞれどう関係しているのでしょうか？

A: 過去に3つの地震は同時に発生したり、近い時期にそれぞれ単独で発生したりしています。例えば、昭和の東南海地震（1944年）が単独で発生した2年後に昭和の南海地震（1946年）が単独で発生していますし、宝永地震（1707年）は東海・東南海・南海地震が同時に発生しています。また、安政地震（1854年）の場合、東海・東南海地震が発生した翌日に南海地震が発生しています。

想定震度と過去の津波浸水深

東海・東南海・南海地震による想定震度



【凡例】
震度階級
7
6 強
6 弱
5 強

宝永地震・安政地震の津波浸水深



中央防災会議で設定している想定地震断層モデルを用い、和歌山県が「県防災会議地震部会」の了承を得て、想定震度を予測しています。

地震の規模 (マグニチュード)	8.6 相当
震源断層の位置	駿河トラフ～南海トラフ
震源断層の深さ	10km～30km

0 0.5 1 2 3 4 キロメートル

御坊市津波浸水予測図（ハザードマップ）

想定津波：東海・東南海・南海地震同時発生（1707 年宝永地震級）に伴う津波の規模（マグニチュード 8.6 程度）

潮位：満潮時 T.P.* +0.8m
*T.P.: 東京湾平均海面—陸地の標高「海拔高度」の基準面

- ・強い地震や弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じた時は、直ぐに津波の危険のないところに避難してください。
- ・津波の浸水域はあくまでもひとつの想定ですので、地震の規模や状況により、実際の浸水域とは異なる可能性があることを留意してください。